

## 「希望はここにある」

主任司祭 晴佐久昌英

晴佐久神父説教集の第二集、「希望はここにある」が出版された。わが高円寺教会の皆さんには、ぜひとも読んでいただきたい。それは、この本が単に「うちの神父さまの説教集」という以上に、「高円寺教会の現実の救いの歴史のあかし集」としての意義を持っているからだ。

およそ説教集などというものは、司祭の死後小冊子として配られたり、牧師が引退するときに集大成として出版したりするものだ。ところがこの説教集は、今、現実の教会のミサで実際に語られている説教が日付順に一年分並べられて一冊の本となり、それが毎年順に出版されて本屋に並ぶという、おそらく他に例のない、ひとつの事件とも言うべき説教集なのである。

その日、そのミサに確かに私たちは集まっていたし、その説教を福音宣言として聞いたし、それを信じたのである。具体的な教会の歴史の中で様々な出来事を共有し、精一杯生きてきた私たちが改めてその記録を振り返るとき、感謝と共に希望があふれてくる。神はその一年、私たちの内に、確かに働いておられたのだ。

30頁には高円寺教会75周年の祝賀会でふと岡田司教がつぶやいたひとことがあり、83頁では今は亡き橋口吉子さんがベッドの上で嬉し涙を流している。教会学校のキャンプ中に戻ってきて子供たちに肉ジャガを分けてもらった話をしているのは102頁。105頁で「おやじの会」が発足し、146頁は高円寺教会出身の二人の助祭の叙階式直前の説教。159頁で洗礼を受けているのは、この夏亡くなられた竹内元樹さん。228頁ではひとりの青年が日本一の降誕祭聖劇で倒れ、296頁では幸田司教の司教叙階式を「神の領域」と語り、307頁に出てくる、前夜初めて高円寺教会に現れた青年は、このたび、07年春に神学校を受験することになった。最後の頁、330頁の、受洗者75名への「神はもうあなたたちを生んだ」という宣言は永遠だと、ぼくは信じている。

そうして、今日も説教が語られる。「希望はここにある」と。それは一司祭の説教であると同時に、神の福音宣言であるはずだ。大切な人にこそこの説教集を渡し、福音を求める全ての人をこの福音宣言の現場へ連れてきてほしい。